

総務教育常任委員会資料

(令和7年8月21日)

【件名】

- ・ 令和7年度第1回鳥取県総合教育会議の開催結果について
(教育総務課) …… 2
- ・ 令和6年度「教育行政の点検及び評価」について
(教育総務課) …… 18
- ・ 令和7年度全国学力・学習状況調査 鳥取県の結果について
(小中学校課) …… 20
- ・ 令和7年度全国高等学校総合体育大会に係る本県開催競技結果について
(体育保健課) …… 40

教育委員会

令和7年度第1回鳥取県総合教育会議の開催結果について

令和7年8月21日
教育 学 術 課
教 育 総 務 課

令和7年度第1回の鳥取県総合教育会議を開催しましたので、その概要を報告します。

1 日時・場所 令和7年7月18日（金）午後3時から4時40分まで（とりぎん文化会館第3会議室）

2 出席者 知事、有識者委員、教育長、教育委員 計12名

〈有識者委員〉

氏名	所属	氏名	所属
大羽 沢子	鳥取大学医学部附属病院ワークライフバランス支援センター 特任助教	堀江 愛	伯耆町教育委員会・大山町教育委員会スクールソーシャルワーカー
織田澤博樹	学校法人鶏鳴学園 青翔開智中学校・高等学校 校長	馬淵 牧子	Fitness Ja-んぐる 専属トレーナー
門脇 友美	前鳥取県PTA協議会中部ブロック代表理事	山田 裕貴	個別指導塾コンパスラボ 教室長

3 概要

(1) 意見交換のテーマ

- ①令和6年度鳥取県の「教育に関する大綱」（第二編）の評価について **別紙1**
- ②高校授業料無償化について **別紙2-1、別紙2-2**
- ③主権者教育について **別紙3**
- ④教員養成について **別紙4**
- ⑤令和6年度英語教育実施状況調査の公表結果及び英語教育施策の推進について **別紙5**

(2) 主な意見

〈教育に関する大綱の評価〉

- ①難関大への進学実績と読書が好きで高校生の割合について、指標では掲げられているが教育大綱の具体的な取組施策では触れられていない。指標から外す、又は指標をアップさせたいのであれば、しっかりと教育大綱の本文に書きこむべき。
- ②誰かのためではなく自分のために生きることができる、生きること自体が自分事なんだと子ども自身が思えて、自分で考えて行動できる力を育むことが大切。
- ③鳥取県で将来働きたいと考える高校生の割合が低下している要因一つ一つに対して丁寧に取り組んでおられる。地元で暮らしたいという思いを受け止める受け皿や仕組みが地元であり、いつでも帰ってこられる安心感、地元には可能性があると思感を持てるような継続的な関わりや情報発信が一層大事になる。
- ④子どもが主体的に学ぶ学校づくりを進める上で、分からないことをそのままにしないという姿勢を子どもたちはしっかりと身に付けてほしい。そのためには学び方の指導を丁寧に行う必要がある。教科担任制やチーム担任制、自由進度学習等を進めていく中で子どもによっては、課題設定や解決のための活動の組み立て方など戸惑いがあるため、分からないことを率直に言える雰囲気づくりや、議論が盛り上がりながらも本当に深い学びにつながっているかどうかを教師が評価し、次に生かすことが大切。

〈高校授業料無償化、高校の魅力づくり・在り方〉

- ①高校無償化により、特に専門高校に通う生徒が私立の普通科に流れるのではないかと。専門高校の生徒数が減り、高卒の就職市場が冷え込み、最終的には地元の企業が苦勞するのではと心配しており、産業系の部署とも連携し県はもっと支援すべきではないか。
- ②何年か後に中部のある高校が廃止されるという事実とは異なる噂が流れており、誤った噂により東部西部や県外進学を考えるようになってからは遅い。変更はあると思うが、現段階での計画、情報を保護者にもしっかりと伝えていただきたい。
- ③鳥取ならではの専門的で高度な学びを、少人数だからこそきめ細かく地域と連携をとりながら進めていけるのは素晴らしいこと。
- ④部活動の実績や進学・就職の実績だけでなく、新たな価値の提供、この学校で得られる成長や経験などを発信することができれば、県内外から選ばれる学校づくりにつながっていく。

<主権者教育>

- ①ちいわか総選挙により、児童生徒の政治への関心がさらに醸成されることを期待している。ふるさとキャリア教育により、地域の良さや課題について考え、解決のためにできることを発信する探究学習を経験しているが、それが主権者教育の基盤として大切。
- ②情報を選択する力や自分と違う意見にもしっかり耳を傾ける姿勢などが求められているが、学校生活の様々な場面で発達段階に応じながら子どもたちに身に付けさせることが大事。

<教員養成>

- ①先生方が忙しくて、新しく来た先生の指導やフォローをする時間がないと、せっかく鳥取県に来た若い先生が定着しないのではないかと。
- ②いろいろな出身地の方、元々鳥取にいらっしゃる方、中途採用や社会人経験のある方など、鳥取県の教育のために力を尽くしていただけるような人材を満遍なく、今後もいろいろな工夫をして採用していただきたい。
- ③教員になりたくない理由は部活による長時間労働。全国的なことであるが、休日の部活の地域移行は進められているが、平日も改善してもらいたい。勤務時間の調整は、学生を呼び込む1つの手だてである。
- ④教員になりたいという子がいたとしても、教員になって欲しくないという親も多い。昔に比べて、先生への信頼や尊敬の気持ちが減っているように感じる。先生が先生の仕事を楽しんでやっているような姿が見られれば、子どもが教員になりたいと言った時に親もいいよと背中を押せる。
- ⑤教育学部に進みたいと思っている生徒でも、鳥取大学に行って教員を目指せることを知らない生徒が多くいた。鳥取で学ぶということは、地域教育の問題を肌で感じることができ、現任教員との懇談や実際の授業にも参加することで、より教員という職業への解像度が上がり、将来にも役立つのではないかと。
- ⑥鳥取大学が地域枠を設けて教員養成ができるようになったというのは、本当に嬉しいニュース。学校現場と連携して、教育委員会が遠慮なくリードしていただくといいなと思う。

<英語教育>

- ①進学校でも英語教育と絡めながら、インバウンドでやってくる外国人に対する対応など、地元の課題についての解決策の提案を企業や観光地にしていくことがあっても面白い。
- ②中学校の英語学習は、いかに興味を持たせて、意欲を高めるかで子どもたちの力が変わる。先生の資格取得より指導方法を工夫することが大事ではないかと。

<体力・運動能力、図書館の活用>

- ①暑さが厳しく、外遊びも減少し、体育の授業や部活動等においてもいろいろと制限が求められる中で、運動習慣の確立が非常に難しくなっていると感じる。対面の運動というよりも、YouTubeやインスタを見ての運動が主流となっており、わくわくするような、楽しみながらできる仕掛け作りがもっと必要ではないかと。
- ②体育の授業だけでは体力向上は難しいと思うが、主体的に学ぶ授業が体育の授業でも行われ、運動が楽しいと思えるきっかけとなり、体育の授業以外に波及していくと良い。
- ③中高とも読書離れの傾向が進んでいることが気になっている。身近で自由に選書ができて、知的好奇心が満たされるような図書館運営をお願いしたい。

(3) 知事総括

- ①教員養成について、身近に憧れる人がいると自分も大きくなったらそうなりたいと思うもの。職場の良さや子どもたちがのびのびと育つ環境を本気で考えていくことが、鳥取で生まれ育ち鳥取で学校の先生になり次の世代を作っていく。サイクルが回っていくことで、鳥取県の人材がしっかり生まれ、地域の力になると思われる。
- ②教育の無償化の影響について、鳥取県は授業料がほぼ無償化となっているため、大きな影響は他県ほど生じないはず。全国的に動いていく中で、高校の魅力化は1つのポイントとしてやっていかなければならない。

令和6年度鳥取県の「教育に関する大綱」（第二編）の評価について

1. 令和6年度大綱に掲げる指標の達成状況等

指標の達成状況は、83.3% (70/84) と、概ね成果を上げることができた。ただし、課題のある項目は依然低迷しており、引き続き改善に向けて取り組む必要がある。

<達成できた主な指標>

- ・英検準2級程度以上の英語力を有する高校生の割合
- ・英検3級程度以上の英語力を有する中学生の割合
- ・教職員の年次有給休暇取得日数（夏季休暇を含む）
- ・不登校児童生徒への支援の結果、登校する又はできるようになった児童生徒及び変容が見られるようになった児童生徒の割合（小学校）
- ・「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し次の学習につなげることができている」児童生徒の割合（小学校・中学校）
- ・「児童生徒に対し、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った」学校の割合（小学校・中学校）

2. 主な課題

(1) 目標を下回ったもの（C評価となったもの[目標に対して90%未満]） ※実績の()は前年度数値

○県立高校の魅力化

- ・**県立高校（全日制課程）の定員に対する入学者数の割合**

〔目標〕 全ての高校で70%を上回る 〔実績〕 全日制22校中15校が達成（15校）

<今後の取組>

- ・スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づく魅力ある教育活動を実施する。
- ・県外生徒募集活動を推進する。
- ・大規模商業施設において出張体験入学を実施する。
- ・魅力化総括コーディネーターによる夜間の入試相談会の実施や県外におけるPR活動を行う。
- ・県立高校立地自治体との県立高校魅力化協定に基づき、住環境整備も含め、地元自治体と連携した魅力化の取組をさらに進める。

○進路指導力

- ・**難関国公立大学の合格者数**

〔目標〕 120人 〔実績〕 98人（106人）

<今後の取組>

- ・学校の枠を超えた連携を深め、教員同士が協働して教科指導力の向上につながる事業を引き続き実施する。
- ・生徒同士が切磋琢磨しながら、進路実現に向けて学習意欲を高め、学力の向上を図る事業を引き続き実施する。

○教員の英語力

- ・**英検準1級以上等の英語力を有する英語科教員の割合（中学）**

中学〔目標〕 65% 〔実績〕 40.2% (40.0%)

<今後の取組>

- ・各外部試験団体から提供されている特別受験制度や文部科学省主催のオンライン研修について、引き続き全県の教員に対しても周知し、積極的な活用を促す。

○手話学習の実施

- ・**学校における手話の取組の実施率（中学）**

中学〔目標〕 100% 〔実績〕 78.9% (85.7%)

<今後の取組>

- ・手話学習未実施の中学校等に対して、手話普及支援員派遣について打診し、手話学習の取組を促進する。

○読書が好きな高校生

- ・**「読書が好きである」高校生の割合**

高校〔目標〕 70% 〔実績〕 60.9% (61.8%)

<今後の取組>

- ・生徒の「読書」イメージを広げ、文学作品に偏らない、さまざまな情報を得る手段としての「読書」を体験できる機会を提供する。
- ・引き続き、学校司書や司書教諭を中心に、生徒の図書館活用の促進に取り組むよう働きかけるとともに、各教科での図書館活用を促す。

○鳥取県で働きたい高校生

・将来は今住んでいる地域や鳥取県で働きたい高校生の割合

高校〔目標〕60% 〔実績〕53.0% (54.1%)

<今後の取組>

- ・引き続き地域と連携した取組を継続していくことで、自分の住む地域を理解したり、地域の人々との交流を通じて、地域への理解と愛着を育む。
- ・普通科高校の生徒に、社会人・職業人としての自立を促すのと同時にふるさとへの愛着を形成するため、地域における課題解決方法の探究的な学習や地元企業見学、インターンシップ等の取組を実施する「普通科高校ふるさとまなびプロジェクト」等のさらなる実施について、学校に働きかける。

○体力・運動能力・スポーツ

・体力・運動能力調査における上位層の割合（小5の男子女子が目標値以下）

小5男〔目標〕42% 〔実績〕31.0% (36.2%)

小5女〔目標〕48% 〔実績〕35.7% (40.8%)

・小学校において、体育の授業を除く1日の運動時間が1時間以上の児童の割合

小5男〔目標〕70% 〔実績〕55.1% (63.2%)

小5女〔目標〕50% 〔実績〕30.9% (47.2%)

<今後の取組>

- ・子どもたちが継続して運動する習慣を身につけるために、「遊びの王様ランキング」の活用を啓発していく。
- ・「授業が楽しい」と感じる児童生徒を増やすために、教員の指導力向上に努める。
 - 指導主事が体育、保健体育学習の研究会へ参加し指導助言を行う。
 - 学校体育講習会、教育課程研究集会を開催する。
 - 体力向上推進計画書において、具体的な数値目標を各学校で明確に設定する。

(2) 全国学力・学習状況調査について

○学力調査の状況

・国語・算数(数学)の学力状況（C評価はなし）

〔指標〕全学年全教科で全国平均を上回る

小6国語 〔実績〕県68% 全国67.7%

小6算数 〔実績〕県63% 全国63.4%

中3国語 〔実績〕県57% 全国58.1%

中3数学 〔実績〕県50% 全国52.5%

県67%	全国67.2%
県61%	全国62.5%
県69%	全国69.8%
県50%	全国51.0%

<今後の取組>

- 鳥取県独自の「とっとり学力・学習状況調査」を県全体で実施することで、児童生徒の学力の伸びを把握し、成果と課題を明らかにするとともに、授業改善に向けてPDCAサイクルを徹底し、根拠を基にした教育施策の推進を図る。
- 各種学力調査等から得られた教育データ、学力向上検討会議における外部有識者等からの助言等を踏まえ、学力向上対策を検討し、市町村教育委員会と連携を図りながら取組を進め、全県展開を図る。
- 全国学力・学習状況調査作成に携わっている調査官等を招聘し、授業づくり研修会を実施することを通して、各学校における授業改善のさらなる徹底を図る。
- 市町村教育委員会と連携し、県指導主事が中学校数学、英語訪問を実施し、教科担当者に指導助言するなど、一緒になって授業づくりに取り組むことを通して、県内全中学校の授業改善を図る。
- 子どもが自ら学び取る力を育成するため、子どもが主体的に学ぶ授業づくりに取り組む学校を支援することで、好事例を創出し、横展開を図る。
- エキスパート教員の授業公開や授業動画の活用を通して、学習指導要領の趣旨に沿った授業づくりのモデルを示し、各学校への周知徹底を図る。
- 教員の指導力向上を図るため、エキスパート教員等によるモデル授業や研修の動画、各種資料等、授業改善についてのWebサイトのコンテンツを充実させるとともに、令和6年度に改訂した研修パッケージ等の校内研修向け教材を各学校で積極的に活用してもらうよう周知する。
- 全県で配信した活用問題集と算数単元到達度評価問題集を活用して、小学校の国語・算数の授業改善を図る。
- ICTをさらに効果的に活用した授業や児童生徒の情報活用能力の育成を図る取組等について授業公開等を通して県内に周知することで教育DXを推進する。
- 中学校の授業改善を推進するため、国語・数学・英語の中学校定期考査研修会の開催や、中学校教育振興会の教科部会との連携を深める取組を行う。

高校授業料無償化の概要について

令和7年7月18日
総務部教育学術課

1 国の対応

○令和7年度：高等学校等就学支援金制度拡充の先行措置として、同制度の対象外となっている者（年収約910万円以上の者）に対し、国補助（高校生等臨時支援金）が措置され、収入要件を事実上撤廃。

令和8年度：高等学校等就学支援金の収入要件を撤廃し、私立高等学校等に通う生徒への支給上限額を現行の年額396,000円から457,000円に引き上げる予定。

【令和7年2月25日 3党合意文書】

- ・いわゆる高校無償化について、義務教育との関係、公立高校（農業高校、水産高校、工業高校、商業高校等の専門高校を含む）などへの支援の拡充を含む教育の質の確保、多様な人材育成の実現、収入要件の撤廃を前提とした支援対象者の範囲の考え方、私立加算金額の水準の考え方（令和8年度は45.7万円）、支給方法の考え方（代理受領か直接支給か、DX化による効率化の推進）、高校間での単位互換、国と地方の関係、公立と私立の関係、現場レベルの負担といった論点について、十分な検討を行う。

- ・令和8年度以降の措置については「骨太の方針2025」に記載し、令和8年度以降の予算に反映させる。

【令和7年6月13日 骨太の方針2025（経済財政運営と改革の基本方針2025）】

- ・いわゆる高校無償化、(中略)については、これまで積み重ねてきた各般の議論に基づき具体化を行い、令和8年度予算の編成過程において成案を得て、実現する。

2 県の対応

<県立高等学校・R7年度～>

国の制度設計に準じ、所得制限なく完全無償化（国補助 年11.88万円支給）

<私立高等学校・R7年度>

国の制度設計に準じ、所得制限を事実上撤廃。（国補助 年11.88万円支給）

※私立中学校についても私立高校と同様の措置を実施。（県単独）

<私立高等学校・R8年度>

国の制度設計を踏まえて、令和7年度に対応を議論していく。



3 高校無償化による本県での影響等

・本県では、全国一の経常経費助成を行うことにより、私立高校の授業料が低く抑えられており、年収約590万円未満の者については、令和2年度からすでに授業料を実質無償化している。私立が多く根強い人気のある東京・大阪などの大都市部と比べると、報道で報じられているほどの影響はないと思われるが、今後は県外の有名私立高等学校が無償化されることで、本県の生徒が県外の私立高等学校に流出する懸念もある。各高等学校は、公立私立に関係なく、特色ある学校づくりを行うことが重要である。

県立高校魅力化への取組について

R7.7.18
高等学校課

1 背景

- 平成元年3月には約9,600人であった中学校卒業生数が、令和7年3月には約4,800人、10年後の令和17年3月には約4,000人、更に今後の出生者数を考えると今後3,000人を割り込むことも想定されている。
- このような中においても、社会の変化、県民や地元産業界のニーズ、多様化する生徒の学習ニーズを踏まえ、教育効果を最大限発揮できる魅力ある県立高校の在り方を計画していく。

2 県立高校の在り方の検討

- 「令和新時代の県立高等学校教育の在り方に関する基本方針（令和8年度～令和17年度）」の策定
(R6.3.16)

生徒一人一人の夢や目標の実現に向けた可能性を広げられるよう「社会とつながり 体験する 選択できる 新しい学び」を創造する学校をめざすとして、基本方針を策定した。

- 基本方針に基づき、2期に分けて再編を予定

	期間	収容定員減	再編の方法	対象学校名公表の時期
前期	R8 ～R12	△240人程度	原則学校数は維持したまま、学科の集約や学級減による整理・再編を進める。	R9実施分はR7.3.15公表済。 R10.10に追加公表。
後期	R13 ～R17	△480人程度	再編・統合を進める	R10.10

* 3学級規模の学校の在り方についての基準を設けているが、少子化対策や雇用創出などに取り組んでいる本県の状況を踏まえ、地域と連携した人材育成など小規模校ならではの特色ある取組を推進している学校については、その存続に最大限の努力を払うこととしている。

* 平成12～平成15年度にかけて全日制28校⇒22校（▲6校）の大規模再編をおこなった。その後、新たに定時制通信制独立校を2校設置。以降20年以上、統合を行うことなく、学級減で対応してきた。このまま学級減で対応すると、学校の小規模化がますます進む。

3 魅力化の取組

(1) 専門高校の魅力化

特に前期においては、将来の鳥取県を支える人材育成をさらに推進するため、専門学科の整理により専門性を高度化し、また、各高校の魅力化を推進する。

<専門高校における取組例>

- ・境港総合技術高校…高等教育機関等と連携した水中ドローンをを用いた水産資源量調査等をとおして海洋分野の人材育成を推進
- ・倉吉農業高校…スマート農業の実践、和牛飼育の研究
- ・総合選択制のメリットを生かした学科を超えた学びの推進
(総合選択制高校…鳥取湖陵高校、倉吉総合産業高校、境港総合技術高校)
- ・鳥取工業高校…鳥取生協病院と連携した医療補助器具の開発（医工連携の取組）、ドローンを活用した測量や映像分析、プログラミング等の学習

(2) 中山間地域の高校の魅力化

特に中山間地域の高校においては、高校の存在自体が地域活性化の核となっているため、県立高校立地自治体と連携してそれぞれの地域に応じた魅力化の取組を推進する。

- <県立高校立地自治体（岩美、八頭、智頭、北栄、日野）×知事×県教育長による県立高校魅力化推進連携協定の締結
(R7.4.28) >

※協定内容（概要）

- ・魅力化コーディネーターの配置…県から町への人件費一部支援
- ・県外生徒受け入れのための住環境整備…県・自治体1/2ずつ負担

<中山間地域における高校の取組例>

- ・智頭農林高校…活動拠点（BASE Connect（ベースコネクト））における地域と協働した活動
- ・青谷高校…青谷上寺地遺跡を活用した学び、海を活用した学び（サーフィンの授業、海ごみ調査、ムラサキウニの駆除作業）
- ・日野高校…地域づくりグループ「みらいず」による地域密着型活動、eスポーツを通じた高齢者との交流

(3) 県外生徒募集

多様な価値観の中で切磋琢磨する環境を創出するため、県外生徒募集を推進している（H28年度入試～）。県外生徒のための住環境整備は地元自治体と連携して推進している。

※県外生徒募集校 13校/24校（R8年度入試）

<県外生徒入学者数の推移>

年度	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
生徒数	25	41	36	44	46	52	54	58	74	64

<地元自治体と連携した住環境整備>

岩美町（岩美高校）、八頭町（八頭高校）、智頭町（智頭農林高校）、倉吉市（倉吉東高校、倉吉西高校、倉吉総合産業高校）、境港市（境高校、境港総合技術高校）（整備中：北栄町（鳥取中央育英高校））

(4) 県民への情報発信

中学生や保護者に対し、大型商業施設における出張体験入学の実施など、県立高校の魅力を伝える取組を実施している。（R6年度～）

※R7.8.6 イオンモール日吉津、R7.8.7 イオンモール鳥取北

(5) 統括コーディネーターの配置

各高校の魅力化の取組をネットワーク化し、統括的に推進（オンライン入試説明会、魅力発信動画制作等）するため、県独自で統括コーディネーターを2名配置している。（R6年度～）

4 その他

- 基本方針後期期間（R13～R17）においては、新たに普通科を加えた総合選択制高校を設置するなど、より生徒の選択肢を広げ、多様化する教育ニーズや社会情勢の変化に対応する学びの場となるよう検討する。

令和7年7月18日
小中学校課・高等学校課

1 主権者教育の状況

- 平成28年6月に公職選挙法の改正に伴い、選挙権年齢が「20歳」から「18歳」に引き下げられたことにより、「主権者教育の重要性」が高まった。
- 主権者教育とは、「国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成していくこと」（総務省「主権者教育の推進に関する有識者会議とりまとめ」平成29年）とされている。
- 学習指導要領に基づいた主権者教育では、社会科・公民科以外の時間で主権者教育に関わる内容相互の連携を図るなど、教育課程全体での取り組みが求められている。
- 本県が独自に実施している「令和6年度学校教育実施状況調査」の結果からは、「主権者教育を実施した」と回答した学校は、小学校、中学校ともに100%となっており、「社会科」等の授業だけでなく、「特別の教科 道徳」や「特別活動」など、教育活動のさまざまな機会をとらえ、主権者教育に取り組んでいる。

【教育活動全体を通じての児童生徒の発達段階に応じた主権者教育の実施】

- ・実施した小学校・義務教育学校前期課程：100%（117校/117校）
- ・実施した中学校・義務教育学校後期課程：100%（56校/56校）

【各学年において学習を行った教科等】

	小学校・義務教育学校前期課程						中学校・義務教育学校後期課程		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
社会			41	46	45	113			56
道徳	34	35	34	35	43	47	7	11	12
特別活動	34	34	32	36	37	40	11	12	12
その他	13	15	16	17	18	22	4	5	4

(数字は学校数)

2 学校における主権者教育の取組内容（※各学校ホームページより）

(1) 小学校

○鳥取市立賀露小学校 児童会立会演説会・選挙（令和7年2月25日）

- ・2月25日（火）に、来年度の児童会役員を選ぶ、立会演説会・選挙を実施し、児童会長に2名、副会長に4名、書記に3名、総勢9名の5年生が立候補を行った。
- ・「安心安全な学校にするために、ろう下歩行チェックをする」「学校を盛り上げて、他学年の友だちとも仲良くするために、みんなが楽しくなるイベントを企画する」など、どの候補者も「どんな学校にしたいか」「そのために、具体的にどんな活動をするか」ということを堂々と演説し、演説を聞いていた子どもたちも、候補者の顔を見て、しっかりと話を聴き、演説を聴いた後、投票を行った。
- ・「賀露小学校をもっと良い学校にしたい」という思いをもった子どもたちがたくさんおり、来年度の児童会の活動をしっかりと盛り上げることが期待される。



○日野町立日野学園 6年生議会（令和7年2月17日）

- ・日野町議会、町執行部の協力を得て、日野学園6年生議会を開催した。
- ・6年生は、はばたき科の「人権が守られた住みよい日野町にしよう」という単元の中で「20年後、こんな日野町になってほしい」というテーマで探究活動を行っており、今回、「愛着と誇りが持てるま

ちづくり」「安全・安心なまちづくり」について、町長に質問、提案を行うこととした。

- ・町長から町の取組を詳しく伺ったり、自分たちの考えを提案したりしたことで、まちづくりについて、深く考える機会となり、政治に関わっていくことの大切さ、議会の役割や大切さを感じ、主体的に社会に参画しようという気持ちも高まったものと思われる。



(2) 中学校

○米子市立東山中学校 生徒会役員選挙（令和6年9月13日）

- ・令和6年度生徒会役員選挙を体育館で実施し、現2年生が選挙公示を受け、11名が立候補した。それぞれが全校生徒の前で立候補の動機・熱い思いを短い時間の中でしっかりと演説した。
- ・投票に関して、米子市選挙委員会に協力いただき、投票用紙記載台、投票箱など実際に選挙で使用しているものを借り、使用した。



○八頭町立八頭中学校 税に関する授業（令和6年12月3日）

- ・鳥取税務署から税務広報広聴官を招き、「税に関する授業」を実施した。
- ・これまでの租税教室は「公民」を学習している3年生を対象とした内容が一般的であるが、少し視点を変え、「歴史」学習に税に関する学びを取り入れた。
- ・現2年生は明治維新の単元の中で地租改正を学習しており、税を切り口にこれまでの学習を振り返り、現在の税についての知識を得て税の必要性や公平性について学ぶことができ、この学習は3年生での租税学習だけではなく、政治に関心を持ち選挙に行くことの大切さにも気づく学習であった。



(3) 高等学校

○鳥取県立鳥取中央育英高等学校 主権者教育講演会及び模擬投票（令和7年2月25日）

- ・2月25日（火）、来年度18歳を迎える2年生を対象に主権者教育講演会及び模擬投票を実施した。
- ・北栄町選挙管理委員会の方を講師に、投票の仕方を指導いただいた後、3名の立候補者に演説してもらい、実際に投票、投開票を実施した。生徒の声には、「名前は書かなくていいの?」や「最初の人（空の投票箱であることを）確認することは知らなかった」などがあり、実際に投票等を体験したことで、自信を持って投票できることが期待される。



○高校生議会（令和6年7月29日）

- ・鳥取県の次世代を担う高校生に、模擬議会等による議論や探究、学びの場を提供し、もって県政・県議会への関心の向上を図ることを目的として、高校生議会が開催された。
- ・今後、鳥取県で活躍する人材の育成、県外への人口流出防止にかかる質問や高校のエレベーター設置にかかる質問など様々な質問が出され、知事や教育長と議論を行った。

3 令和7年度主権者教育に係る「鳥取県ちいわか総選挙」の実施

○令和5年度の「投票率低下防止等に向けた政治参画のあり方研究会」の提言を受け、令和6年度に「ちいわか（※）になろうや！教育プログラム・教材作成研究会」を設立。有識者・現職教員らの意見を取り入れながら、児童生徒が将来、社会や地域の中で主体的に役割を果たす主権者として成長していくための主権者教育用教材及び教育プログラムを作成。

※ちいわか…地域とつながり、地域に愛着を持ち、地域のことを我が事ととらえて、積極的に投票その他政治参加する若者になってほしいとの願いを込めた造語

○作成された主権者教育教材を活用して、鳥取県民の日（9月12日）を目途に「ちいわか総選挙」と題し、県内の小・義務教育学校6年生、中学校3年生・義務教育学校9年生の児童生徒を対象に各自の端末を活用したオンライン投票を実施（投票は小学校9月末、中学校11月末に締切予定）。

○投票結果によって県の施設等の愛称や施策の方向性を決定し、実際に実現するという体験が、政治的有効性感覚（※）の醸成にも寄与するものと考え、実践的な学びの機会を設定。

※政治的有効性感覚…自分の行動や意見が政治に影響を与えられるという実感・感覚

○令和7年7月に市町村（学校組合）教育委員会に通知し、本投票を行うにあたっての教材配布や指導者用の説明資料、授業の流れの細案、より詳しく調べるためのリンク及び動画等を送付。

【教材①】ちいわか総選挙教育プログラム（小学生用、中学生用）

- ・学習の指導案、QRコードを活用したオンライン投票の手順等を掲載しています。



○全県で集計する「全県用」と各学校内で集計する「校内投票用」の2種類があります。

【教材②】投票所入場券（小学生用、中学生用：A3リーフレット2つ折りのA4サイズ）

- ※投票所入場券の印刷物については、県選挙管理委員会から各学校へ直接送付します。
- ・内側面には、学習の流れの概要をつかめるようにし、QRコードから鳥取県知事の思いを語った動画、より詳細に選挙や投票について知ることのできる動画や資料にアクセスできます。



小学校
義務教育学校
6年生用

○今後の予定

対象児童生徒	小学校・義務教育学校6年生	中学校3年生・義務教育学校9年生
投票期間	令和7年9月1日（月）から 9月30日（火）まで	令和7年9月1日（月）から 11月28日（金）まで
結果の公示 （予定）	令和7年10月7日（火）	令和7年12月8日（月）

令和7年7月18日
教育人材開発課

令和7年度教員採用試験結果、令和8年度教員採用試験に係る取組等について、その概要を報告します。

1 令和7年度教員採用試験結果について

試験区分	採用予定数	志願者数		一次合格者数		二次欠席者数		A登載者数		A登載辞退者数		採用者数	
		県外出身	県外出身	県外出身	県外出身	県外出身	県外出身	県外出身	県外出身	県外出身	県外出身		
小学校教諭	150	513	366	391	275	94	89	204	133	107	100	102	33
中学校教諭	50	291	151	121	64	16	16	49	27	19	17	37	12
高等学校教諭	25	213	93	79	32	10	9	21	4	5	4	19	1
特別支援学校教諭	25	173	113	120	83	22	21	40	22	19	15	21	7
養護教諭	5	123	80	21	13	2	2	5	2	0	0	6	2
栄養教諭	2	28	14	9	7	0	0	2	2	0	0	2	2
合計	257	1341	817	741	474	144	137	321	190	150	136	187	57

※志願者数、一次合格者数及び二次欠席者数には志願・併願試験区分による重複の者を含む。

※採用者数には、合格者（A登載者）以外にも、B登載（いわゆる補欠合格）、過年度合格者（A登載者）から正式採用となった者を含む。

(1) 結果分析

○令和6年度教員採用試験と比較して、志願者は減少したものの、採用者を確保することができた。

・257人の採用予定数に対して187人の採用者数（対前年度+26人（小学校教諭+28人））

	採用予定数	志願者数	採用者数	確保率[%]
R6試験	270	1378 (481)	161 (104)	59.6
うち、小学校教諭	150	590 (134)	74 (35)	49.3
R7試験	257	1341 (524)	187 (130)	72.8
うち、小学校教諭	150	513 (147)	102 (69)	68.0
差	△13	△37 (+43)	+26 (+26)	+13.2
うち、小学校教諭	—	△77 (+13)	+28 (+34)	+18.7

※括弧内は県内出身者の数

○要因

・県内志願者の増加

→合格し易いという認識の拡大に加え、令和元年度から開始した、『『未来の教師』育成プロジェクト』の効果もあるものと思料

・志願者確保に向けた広報活動の充実

→近県大学及びオンライン等での教員採用試験説明会の実施
→「とっとり教採アンバサダー」を活用したプロモーション動画の作成・配信
→Google検索エンジン、Yahoo!ディスプレイ等のインターネット広告等の活用

プレシーズン説明会（1～2月）及び実施要項説明会へのオンライン等参加者は延べ890人
大学訪問説明会は14大学で実施（令和7年度試験実績）
プロモーション動画（短編）をYouTube広告に活用、短編動画再生回数は10万回以上、長編動画は約3,400回程度の再生
「とっとり教採アンバサダー」からのメッセージ発信（公式Xへの投稿）を延べ18回
※「とっとり教採アンバサダー」：鳥取県で教員になることの魅力等を志願者目線で情報発信するため、新規採用教員のうち、県外新卒者を含む6人を委嘱、プロモーション活動に協力

⇒志願者へのアンケート結果より、志願者の100%が何らかのプロモーション活動のメディアに触れた上で、本県へ出願

・(新)合格者懇談会「TTG (Tottori Teachers Greeting)」の開催 (名簿登載者の辞退減少対策)

→鳥取県の教員になることや鳥取の生活等に対して具体的なイメージを持ってもらうことを目的とし、令和6年9月下旬に「とっとり教採アンバサダー」も参加して、姫路と大阪で実施

(2) 課題

○令和6年度教員採用試験との比較では改善したものの、欠席者、辞退者は依然として多い。

→志願者は集めているが、他県にも受験機会を確保している者がほとんどである。県外出身者が61% (小学校教諭は71%)を占めている。

<一次試験合格者に占める二次試験欠席者の割合>

	全体	うち小学校
R7試験	欠席率19% (144名/741名)	欠席率24% (94名/391名)
R6試験	欠席率26% (179名/695名)	欠席率33% (125名/381名)

<合格者 (A登載者) に占める合格辞退者の割合>

	全体	うち小学校
R7試験	辞退率47% (150名/321名)	辞退率52% (107名/204名)
R6試験	辞退率53% (174名/327名)	辞退率64% (129名/203名)

○以下のような理由により、教員確保の困難性は全国的な課題

→我が国の人口減少、生産年齢人口の減少等により、各業界が人材を奪い合っている状況

※総務省人口推計によると、R5. 10. 1～R6. 10. 1の間に日本人人口は89万8千人減少 (▲0. 74%)。生産年齢人口は同期間に22万4千人減少 (▲0. 30%) (鳥取県の生産年齢人口は4, 369人減少 (▲0. 82%))

※鳥取県人口は、令和7年1月1日時点で529, 943人と53万人を割り込んだばかりだが、2か月後の3月1日時点で528, 572人と更に減少 (▲1, 371人)

→教員養成大学の教員就職率が7割を下回る状況

※R5. 3卒業者の教員就職率は67. 8%であり、7割を下回る状況が継続 (R4. 3卒業者の教員就職率は66. 9%、R3. 3卒業者の教員就職率は65. 2%)

→免許状授与件数の減少

※R5年度の普通免許状授与件数は182, 938件 (うち小学校教諭は26, 952件) に対し、H30年度の普通免許状授与件数は204, 050件 (うち小学校教諭は28, 786件) から減少傾向が継続

(3) 上記課題を踏まえた方針

①地元大学との連携

地元で教員になる学生を育成すべく、教職志向性の高い高校生の開拓から教員採用まで、一つのベクトル上に乗るような取組を構築

<鳥根大学との連携>

・平成31年度～ 「未来の教師」育成プロジェクト

県立高校3校を拠点校 (現在は8校) とし、島大教授・学生等による教育学部の紹介、教職に就いた卒業生等による教職に係る講話など、独自のプロジェクトを実施

・令和4年度～ 鳥根大学教育学部体験入学等

大学理解促進、教員採用試験制度の早期情報収集、教員採用試験制度の理解など、「プロジェクト参加生徒限定」の特別な機会の創出

・令和6年度 (令和5年度実施) ～ 大学入試

鳥根大学教育学部総合型選抜Ⅱ「地域教員育成型」に鳥取県枠 (7名) 新設

・令和7年度～ 1000 時間体験学修を活用したスクール・インターンシップの実施

鳥根大学大学教育学部地域志向入試で入学した学生を対象に、鳥取県内の公立学校で合計200時間のスクール・インターンシップを実施

※授業の学習サポート (特別支援に係るものを含む)、学習プリントの準備等、授業実施以外で教員の仕事の理解につながるもの。

・令和10年度 (令和9年度実施) ～ 教員採用試験

スクール・インターンシップ等で一定の評価を得た学生を対象に、第一次選考試験免除の特別選考を導入

＜鳥取大学との連携＞

・令和6年5月1日 鳥取大学とのキックオフ会議

※以降、県・県教委・鳥取大学で構成するWG等で教員養成機能強化に向けた検討を継続

・令和7年4月22日 質の高い教員の確保を目指す新たな教員養成プログラムを大学が公表

[入学前の連携強化] 地元の高校生が鳥取大学地域学部に向かってくる仕組みの構築

[カリキュラム改革] 学校と地域の2つのフィールドで教師を育てる新たな教育プログラムの設置及び高大連携科目群の創設

[教員採用・定着の改革] 県教委採用試験でのインセンティブ、奨学金代理返還制度の創設による経済的支援及び一定の勤務経験後の大学院への進学による教員のキャリアアップ

・令和7年5月26日 鳥取大学が、コース名変更を公表

※高校生等に教員養成していることが分かりやすくなるよう、「人間形成コース」を「教育科学コース」に変更

・令和7年6月18日 鳥取大学の新たな教員養成プログラムが、文部科学省事業（地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業）に採択

→令和9年度入学生（令和8年度入試）から地域教員希望枠（5名程度）を創設

→本年度より、高大連携事業を先行実施

[教職カフェ（試行実施）【7月19日】]

教員を目指す、教員に興味のある高校生を対象に、鳥大学生・教員、鳥大出身の現任教員との懇談の場を設け、高校生への不安、疑問を解消（鳥取大学地域学部オープンキャンパス内で実施）

[協働探究プロジェクト【9月以降予定】]

高校の総合的な探究の時間に大学生が参加（試験的に、今年度は鳥取西高校との連携を予定）

[地域教育ボランティア【11月4日予定】]

高校生と教職を目指す大学生が放課後児童クラブ等での学習支援

※鳥取市「やってみよう！でー(day)（体験的学習活動等休業日）」に実施

②その他

○教員の質の担保が大前提であり、単に合格者（A登載者）を増やす対策は教員の質の低下が危惧されることから、教員採用試験における合格水準は維持したい

※条件附採用期間中に採用にならない者は、全国でも毎年増加

R3:537人→R4:637人→R5:788人（文部科学省人事行政状況調査より）

○上記人口減少の状況に係り、今後、教育の質を担保する上でも必要教員数も慎重に検討していく視点も必要

2 令和8年度教員採用試験について

(1) 継続した取組について

・第一次選考試験は、令和7年6月7日(土)に実施。

→6月第1週の実施に変更はないが、他の都道府県が早期化した影響を受け、全国8番目の実施（昨年度は4番目）

→本日程の他県との重複はなし

・関西会場で全試験区分の第一次選考試験を実施

・合格者懇談会「TTG (Tottori Teachers Greeting)」の開催（名簿登載者の辞退減少対策）

→令和7年9月中に開催予定

→開催地区については、志願者の動向を踏まえて検討

(2) 新たな取組について

・特別選考VI「普通免許状を有しない社会人実務経験者を対象とした選考」の受験資格の緩和

→実務経験年数を「15年間で7年以上の実務経験」から「5年間で3年以上の実務経験」とする。

※受験資格を緩和することで専門人材の確保をねらう

※国は「特別免許状の授与に係る教育職員検定等に関する指針」において、教科に関する専門分野に関する勤務経験等を概ね3年以上と記載

(3) その他

○「とっとり教採アンバサダー」を活用したプロモーション動画の作成・配信。

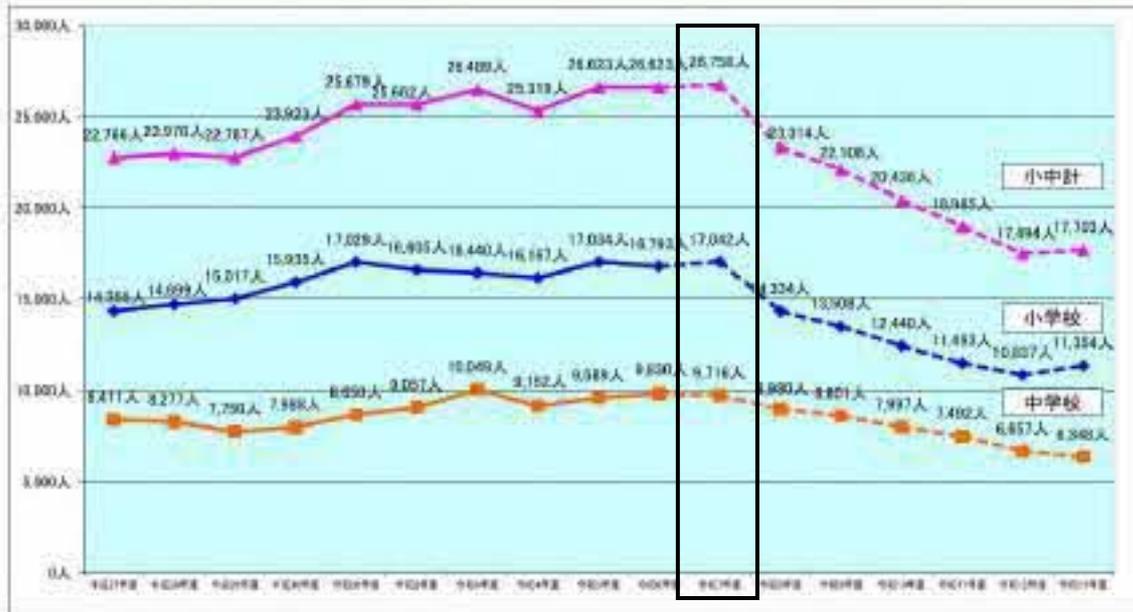


3 今後の教員需要数予測

○文科省調査によると、小中学校採用者数のピークは、R7採用試験（R6実施：□ 枠）。

○R12採用試験（R11実施）には、R7比（5年間）で約34.6%減少する見込み。

※ただし、令和7年6月に成立した改正給特法附則において、「令和8年度から中学校35人学級への定数改善を行う」旨が規定されたことから、中学校教員数の需要数は当該データから増加することが見込まれる。



令和6年度英語教育実施状況調査の公表結果及び英語教育施策の推進について

令和7年7月18日 小中学校課、高等学校課

令和6年度英語教育実施状況調査の結果が令和7年6月23日に公表されましたので、本県の状況を報告します。

【生徒の英語力の状況】

○高等学校では、国の示す指標（※1）〔CEFR A2レベル相当（英検準2級など）以上〕を達成する3年生の生徒の割合は52.0%（昨年度比1.0ポイント増加）で、全国平均と同程度であった。

○中学校では、国の示す指標〔CEFR A1レベル相当（英検3級など）以上〕を達成する3年生の生徒の割合は52.5%（昨年度比1.5ポイント増加）で、全国平均と同程度であった。

【教師の英語力の状況（※2）】

○国の示す指標〔CEFR B2レベル相当（英検準1級など）以上〕を達成する教師の割合が、高等学校では100%で、昨年度に引き続き全国1位となった。中学校では40.2%（昨年度比0.2ポイント増加）で、全国平均を下回った。

【授業における言語活動（※3）の実施状況】

○英語科の授業づくりの中心となる言語活動の実施について、高等学校では44.2%で、令和5年度の53.1%よりも8.9ポイント下回り、改善が必要である。

○小・中学校については、今回の国調査では調査されなかったため、県が同時期に独自調査を実施した。その結果、小学校では91.0%と9割以上の学校が授業時間の半分以上言語活動を実施しているが、中学校では67.8%と小学校よりも減少しており課題が見られた。

（※1）国の示す指標：生徒の英語力について、高等学校卒業段階でCEFR A2レベル相当（英検準2級など）以上、中学校卒業段階で、CEFR A1レベル相当（英検3級など）以上を達成することが示されている。国の第4期教育振興基本計画（R5～R9）では、同指標を達成した生徒の割合の目標値を6割以上とするとともに、全ての都道府県・政令指定都市において、同指標を達成した生徒の割合を5割以上にすることを目指すことが示されている。

（※2）教師の英語力の状況：「英語能力に関する外部試験」の結果で、「CEFR B2レベル相当（英検準1級など）以上」を取得している英語担当教師数の割合。

（※3）言語活動：学習指導要領に示されている、英語によるコミュニケーションを育成する資質・能力を育成する活動。

1 英語教育実施状況調査とは

文部科学省が平成25年度より毎年実施している全国公立小中高等学校等における英語教育の状況を把握する調査（令和2年度は未実施）

令和6年度は小学校調査なし。また、調査項目の精選により中学校調査における「授業における言語活動時間の状況」や「小中連携」等に係る調査項目なし。

2 結果概要

(1) 生徒の英語力の状況

学校種	R6達成度（順位）	全国平均	R5達成度（順位）	全国平均
高等学校	52.0% (17位)	51.6%	51.0% (19位)	50.6%
中学校	52.5% (14位)	52.4%	51.0% (14位)	50.0%

(2) 教師の英語力の状況

学校種	R6達成度（順位）	全国平均	R5達成度（順位）	全国平均
高等学校	<u>100% (1位)</u>	82.2%	99.1% (1位)	80.7%
中学校	40.2% (31位)	46.2%	40.0% (29位)	44.8%

(3) 授業における言語活動（※）の状況

学校種	R6達成度（順位）	全国平均	R5達成度（順位）	全国平均
高等学校	44.2% (38位)	56.6%	53.1% (21位)	54.3%
中学校（※）	67.8% (-位)	調査無	64.9% (36位)	75.1%
小学校（※）	91.0% (-位)	調査無	92.4% (33位)	94.4%

※授業における言語活動の状況：（高）授業において生徒が英語による言語活動をしている時間が、授業の半分以上と回答した教師数の割合。
（小・中）授業において児童生徒が英語で言語活動をしている時間が半分以上と回答した学校の割合。なお、小・中学校については、国調査では本項目は調査されなかったため、本調査と同時期に行った「令和6年度英語教育に係る鳥取県独自調査」の結果による

3 成果と課題（○：成果 △：課題）

<高等学校>

○生徒の英語力の状況は、国の示す指標を達成する生徒の割合が令和5年度よりも上昇し、全国平均を上回っている。外部検定試験を受験する生徒の割合は、令和5年度は65.1%、令和6年度は64.3%と、いずれも全国平均よりも高い数値を維持している。パフォーマンステストの実施やALTとのチームティーチング等の授業改善が学習意欲向上につながっていると考えられる。

△授業における言語活動の状況は、令和5年度よりも8.9ポイント下回り、全国平均を12.4ポイント下回っている。普通科は昨年度とほぼ変わらない数値だったが、総合学科、専門学科での減少が目立った。

<中学校>

○生徒の英語力の状況は、「英検3級相当」以上の英語力がある中学3年生の割合は、2年連続で5割を超えており、経年でも着実に向上してきている。4技能を統合的に育成するため、令和5年度から中学3年生を対象に外部試験4技能型、中学1・2年生対象に2技能型の英検I BA (※)を実施しており、客観的指標を基にした生徒の英語力の把握を可能としている。

⇒令和3年度から実施している県教育委員会外国語担当指導主事等による全中学校等への学校訪問や教員を対象とした各種研修会の開催等によって教員の指導力向上を図っており、その取組が生徒の英語力向上につながっていると考えられる。

△生徒の英語力の状況は、学校間の差が大きい。各学校の実態に応じた個別の支援が必要である。

△授業における言語活動の実施状況は、言語活動実施の割合が授業時間の半分に達していない学校が一定数あり、学校間において言語活動の量に差が生じている。今後も学校訪問等を通じて、言語活動を通じた英語力向上について周知していく必要がある。

※英検I BA：日本英語検定協会が実施する、英語力を、読むこと（リーディング）、聞くこと（リスニング）、書くこと（ライティング）、話すこと（スピーキング）の技能毎で測ることができるテスト。結果は、技能別のスコアや英検級レベル等で示されるが、実際の英検資格の取得とはならない。4技能型では全ての技能、2技能型では、読むこと（リーディング）、聞くこと（リスニング）の英語力を測る。

<小学校>

○外国語の授業において、児童が英語で言語活動を行っている時間が半分以上と回答した学校の割合は、令和4年度から継続して9割以上である。研修会等で「言語活動の充実」について周知を図るとともに、エキスパート教員や小学校英語専科加配教員等の実践等を紹介してきたことが、結果につながっていると考えられる。

4 今後の具体的な取組

(1) 外部試験受験機会の創出

①【継続】外部試験を活用した児童生徒の英語力向上事業

県内全公立中学生と小学6年生（希望する学校）に外部試験（中1・中2：2技能型英検I BA 中3：4技能型英検I BA 小：英検ESG）を実施し、児童生徒の英語学習への意欲の向上を図るとともに、各学校で、結果を活用した授業改善の推進を支援する。

(2) 教員の指導力・授業力向上

①【継続】中学校・義務教育学校（後期課程）外国語（英語）訪問

県教育委員会外国語担当指導主事等が、県内全ての中学校・義務教育学校（後期課程）を訪問し、授業参観及び指導助言を行い、授業改善を個別に支援する。

②【継続】各種研修会等の開催

各学校での指導改善を図るため、各学校種で以下の研修会を実施するとともに、全ての学校種の教員を対象とした「英語教育推進フォーラム」を開催し、学校間の学びの連続性を意識し、小中高等学校で一貫した「言語活動を通じた英語力向上」の推進を図る。

- ・（小学校）外国語・外国語活動専門研修（兼小学校英語専科加配教員研修）
- ・（中学校）定期考査研修
- ・（高等学校）生徒の学習意欲を高める指導と評価についての研修

③【新規】令和7年度鳥取県生成A I等を活用した英語力向上事業（国事業：A Iの活用による英語教育強化事業）

中学校及び高等学校にモデル校を指定し、生徒自身が生成A I等を活用して英語力向上に取り組むとともに、授業づくりに生成A I等を活用できる教師を育成し、生徒の英語使用場面の増加や個への支援の充実に関する知見を創出し、県内全域への周知を図る。

(3) 児童生徒の英語使用機会の充実

①【継続】小学生のための1 DAYイングリッシュ（小学生対象）

小学生がネイティブスピーカーとの様々な活動を通して英語に親しむイベントを開催する。

②【継続】Tottori English Challenge Program 2025（中高生対象）

中学生及び高校生のスピーキング力向上のため、夏季休業中に3日間にわたる目的別のスピーキング講座を開催する。

③【継続】オンラインスピーキング事業への補助（小中学生対象）

小中学生の話す力を伸ばすためにオンライン英会話レッスンまたはA I英会話アプリを導入する市町村に、受講料を支援する。

④【継続】高校生海外交流促進事業（高校生対象）

高校生の海外派遣等を支援 [江原道国際フォーラム派遣事業・鳥取県高校生英語弁論大会優秀者海外派遣事業・NZ高校生架け橋プロジェクト]

1 教育行政の点検及び評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会は毎年、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うこととされており、この度、鳥取県教育振興基本計画に定める施策項目について、別冊のとおり点検及び評価を実施しましたので、その結果を報告します。

<点検及び評価方法>

これまで点検・評価は、鳥取県教育振興計画の6つの目標と25の施策を100程度の事業計画として区分し、年度内の取組状況と成果、課題とその対応について取りまとめていたが、内容が多岐にわたり、煩雑となり、総括的な評価として多少分かりづらい面も見受けられるため、この度、6つの目標と年度ごとの重点取組事業について重点的に点検・評価を行うことで、県教育行政全体の進捗・課題を把握し、教育行政の推進により資するものとする。

※参考:教育大綱(抜粋)

「鳥取県教育振興基本計画」を基本として、本県教育の中期的な取組方針や毎年度の重点的な取組施策、指標を定め、毎年度施策の推進を図る。

2 点検及び評価の概要(抜粋)

(1)全体総括

○鳥取県に誇りと愛着を持ち、将来にわたりふるさと鳥取を思い、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができる人材を育成するため、すべての小・中・高・特別支援学校でふるさとキャリア教育に取り組んだ。その結果、「親子でおしごと体験ツアー」に多くの参加があったり、地域課題解決にかかる探究学習が広がりをみせたりした。さらに、鳥取県教育研究大会において児童生徒の学びの成果を発表する機会を設けるとともに県民への周知を図った。

今後もふるさとキャリア教育の充実と県内就職につながる職場体験、企業連携等を図る。

○多様な教育ニーズに応じた、誰一人取り残さない学びの創造のため、令和6年4月、県立まなびの森学園(夜間中学)が開校し、『学ぶ』よろこび、『つながる』よろこび、『社会の中で生きる』よろこびの実現に向けて、一人一人に寄り添う教育活動の実施に努めた。

不登校やいじめ、問題行動等の未然防止及び対応の充実を図るため、学校生活適応支援員、校内サポート教室の拡充、児童生徒等への自宅学習支援等を推進している。しかしながら、小中学校における不登校児童生徒が増加傾向にある。引き続き、市町村教育委員会及び学校との連携を密にし、不登校等の未然防止や早期発見・支援の充実を図る。

(2)目標数値・実績の達成状況(重点取組事業)

重点取組事業の9割近く(A(達成)とB(概ね達成)合わせて)が順調に進捗

項目	評価内容			
	A	B	C	合計
1 社会全体で学び続ける環境づくり	1	—	—	1
2 主体的に学ぶ力を育む学校教育の推進	13	23	4	40
3 多様な教育ニーズに応じた誰一人取り残さない学びの創造	5	3	2	10
4 学びを支える教育環境の充実	3	—	1	4
5 生涯にわたる健やかな体づくりと運動、スポーツの推進	—	—	—	—
6 文化、伝統、豊かな自然の継承、再発見、芸術の創造	—	—	—	—
合計	22	26	7	55

<目標を達成した主な指標(A評価)> ※括弧内は(実績/目標)

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」児童生徒の割合(小 83.6%/82% 中 76.8%/70%)
- ・「いじめが解消しているもの」の割合(82.9%/77.5%(全国))
- ・入学した高等学校に満足している高校生の割合(全日 80.9%/76.1%(前年) 定時 82.0%/76.5%(前年))

<目標を達成できなかった主な指標(C評価)>

- ・「学校の授業(数学)の内容がよく分かる」と思う生徒の割合(中 71.4%/80%)
- ・小中学校における不登校の出現率(小 2.27%/2.14%(全国)・1.74%(前年) 中 7.19%/6.71%(全国)・6.06%(前年))
- ・県立高等学校(全日制課程)の定員に対する入学者数の割合(70%を上回った高等学校は 68.2%(15校/22校))

(3)目標ごとの評価(特に力を入れた25の施策に対する評価)

[目標1 社会全体で学び続ける環境づくり]

- 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の導入・地域学校協働活動を推進する市町村への財政支援、地域と学校をつなぐコーディネーター養成・研修会開催による人材育成等を行った。

⇒[評価]

公立学校における学校運営協議会設置 100%を達成したほか、地域学校協働活動本部の設置割合も向上しており、学校・家庭・地域の連携・協働体制が強化された。

[課題・今後の取組]

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて、関係者の制度に関する理解促進を図る必要がある。引き続き、研修会等による関係者の資質向上やコミュニティ・スクールと地域学校協働活動事例集を活用した好事例の継続的な発信等、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の更なる充実を行っていく。

[目標2 主体的に学ぶ力を育む学校教育の推進]

- 全公立中学生と希望する小学校の6年生を対象に、英語の外部試験を実施し、得られたデータを分析して授業改善を図ってきた。

⇒[評価]

令和6年度の中学3年生の生徒 50%以上が英検3級レベルに到達した。また、日々の授業でも「使いながら英語を身に付けられる授業づくり」が浸透し、教師と生徒、生徒同士の英語でやりとりする場面が増えたことで、特にリスニング力の向上につながった。

[目標4 学びを支える教育環境の充実]

- 各高校において地元自治体と連携してそれぞれの魅力・特色のさらなる充実に取り組みむとともに、県外生徒募集イベントへの参加によって県外からの入学者を増やす等、多様な価値観に触れ、切磋琢磨する環境を創出した。

⇒[評価]

魅力化の充実に取り組みむことにより、学校・地域の活性化につなげている。

[課題・今後の取組]

児童生徒数が減少する中、中山間地域の高校や専門高校を中心に、定員未充足の状況が続いている。また、これから高校無償化が実施される中で、さらに地元自治体と連携し新たな魅力の創出に取り組みむ必要がある。今後、社会の変化や産業界のニーズ、多様化する生徒の意向・目的を見定め、大切にし、再編計画を着実に実行していく。

(4)重点取組事業の評価

○小中高校生への地元定着促進事業 進捗状況[予定どおり]

- ①親子でのごと体験ツアー」を東、中、西部で各1回実施し、児童と保護者計91人の参加があった。また、「ふるさとキャリア教育CMコンテスト」を実施し、全体で148作品の応募があった。
- ②地元企業と連携して、高校生インターンシップを実施するとともに、経営者・若手社員による講座実施や企業見学を実施して、高校生に県内企業の魅力を発信した。

[今後の取組]

- ①体験ツアーの訪問企業や開催回数を増やすなど、より多くの親子が参加できる機会を作るとともに、体験や見学の様子をホームページ等で発信する。CMコンテストの趣旨をチラシや研修会等で広く学校に周知するとともに、過去の優秀作品を積極的に情報発信する。
- ②学校の教職員や就職支援相談員、企業とのさらなる情報共有及び連携を図るとともに、若者定住・Uターン等を専業としている団体にコーディネートを委託し、学校側に積極的にアプローチする。

○地域に根差した魅力ある学校づくり推進事業・つながるひろがる高校魅力充実事業 進捗状況[予定どおり]

- ①都市部の中学生・保護者と高校のマッチングイベント「地域みらい留学」に参加した。
(R6.6月 東京 201人、R6.7月 大阪 121人参加、R7 県外からの入学生 64人(R6 入学生 74人))
- ②大型商業施設において、県立高校の魅力を生徒自らが発信する出張体験入学イベントを実施した。
(R6.8月 東部 約300人(学校ブース延べ約460人) 西部 約200人(学校ブース延べ約850人))

[今後の取組]

- ①全国の中学生・保護者が入学したいと思える特色・魅力ある教育活動を推進、発信していく。
- ②より多くの中学生・保護者が参加できるイベント内容を検討する。

○部活動の地域移行推進事業 進捗状況[予定どおり]

- ①第7回鳥取県部活動在り方検討会を開催し、今後の部活動改革の方向性や取組方策等について協議を行った。
- ②部活動改革に係る意見交換会(市町訪問を含む)を年3回開催し、各市町の取組状況、課題や要望などを把握し、共有した。併せて市町間での情報交換や意見交換を行う機会を設けた。
- ③県部活動コーディネーターを配置し、関係団体、市町村等との連絡調整・指導助言等を行った。

[今後の取組]

- ①今後も継続検討し、令和8年度以降の県の方針を盛り込んだ「鳥取県公立中学校等における部活動の地域連携・地域移行に向けた推進計画」の改訂に向け、在り方検討会で協議していく。
- ②各圏域、市町訪問、全県一斉の開催形式で意見交換会を年3回行い、各市町の取組状況、課題や要望などを把握し、県の方針や支援の在り方を検討する。
- ③県コーディネーターの配置を継続し、関係団体や市町村等との連携を図り地域移行を推進する。

令和7年度 全国学力・学習状況調査 鳥取県の結果について

令和7年8月21日
小中学校課

令和7年4月14日(月)から17日(木)にかけて実施した全国学力・学習状況調査に係る本県の調査結果について、以下のとおり報告します。

1 令和7年度全国学力・学習状況調査のポイント

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、
- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 結果公表の見直し(文部科学省発表資料から)

○調査結果の公表・提供について、令和6年秋に全国知事会で実施されたアンケート等で挙げられていた課題は以下のとおり。

(主な課題)

- ・生徒の振り返り効果を高めるため、結果通知時期を早めてほしい。
- ・全国との平均正答率との差や順位のみが独り歩きしており、教育現場の混乱を助長しかねない状況である。
- ・授業改善に生かすものであるという調査の目的・趣旨がしっかり伝わるような公表の在り方を求める。
- ・結果公表に際し、都道府県・指定都市で十分に分析ができないスケジュールとなっている。

○これらのことを踏まえ、国による結果公表が、以下のとおり3段階に分けて行われることになった。

7月14日(月)	結果公表①(正答率・IRT(※)バンド分布などの全国平均)
7月31日(木)	結果公表②(全国データに基づく分析結果)
8月以降(秋頃目途)	結果公表③(都道府県・指定都市別データに基づく分析結果)

※IRT(Item Response Theory): 項目反応理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。なお、詳細は6ページ【参考1】参照。

○このように3段階に分けた目的は以下のとおり。

- ・児童生徒の学びへの還元を最優先に、学校への結果返却の時期を前倒しとする。
- ・全国データに基づく分析結果をより効果的に発信する。
⇒これまでとは同時期に全国データに基づく分析と都道府県・指定都市別の平均正答率が公表されていたため、後者に注目が集まり、本調査の目的に基づいて国が発信しているメッセージが十分に届かない状況も見受けられた。
- ・都道府県・指定都市別データの公表までに各都道府県・指定都市の主体的な分析期間を確保する。
⇒都道府県・指定都市が自らの調査結果を公表する時期については、公表データを主体的な分析に基づいて説明することができる準備が整ったタイミングとすることが望ましい。

※令和7年6月6日付けの文部科学省からの通知では「各都道府県・指定都市教育委員会において、自らの調査結果を分析するに当たっては、(略)個々の問題等に着目して学習指導上の課題を把握したり、質問調査の結果と合わせて総合的に分析したりすることが重要である。」とあり、「これを踏まえた主体的な分析により、(略)教科調査の全体の平均正答率・スコアのみならず、(略)調査結果を多面的に解釈することができる示し方となるよう工夫することが期待される」と示されている。

※令和7年7月24日に実施された、結果公表②に係る文部科学省の記者レクにおいても、都道府県・指定都市教委に対して、調査結果を多面的に解釈することができる示し方となるよう依頼していること、都道府県・指定都市教育委員会による公表日及び公表内容については教育委員会に委ねており、主体的な分析を行った上で、8月以降に公表されることも想定していることなどについて、説明されている。

以上のことを踏まえ、今回の本県の調査結果においては、各教科の特徴的な問題や課題等を示した。

また、教科調査の詳細な分析や今後の取組については、市町村(学校組合)教育委員会と連携して、検討・実施していく予定である。

(3) CBT(※)での実施

「中学校理科」のCBT方式では、IRTが採用され、生徒1人あたり公開問題10問と非公開問題16問が出題されている。公開問題には全日程に共通する問題6問と、実施日により異なる問題4問がある。非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いている。

※CBT(Computer Based Testing): コンピュータ使用型調査

2 本県の実施状況

(1) 小学校6年

実施校118校(小学校111、義務教育学校6、特別支援学校1)

教科等	国語	算数	理科	質問調査
人数	4,357	4,360	4,362	4,450

(2) 中学校3年

実施校61校(中学校50、分校2、義務教育学校6、特別支援学校3)

教科等	国語	数学	理科	質問調査
人数	3,949	3,954	3,945	3,959

3 全国における「教科に関する調査」の結果のポイント(文部科学省発表)

(全体)

都道府県別の平均正答率・スコアのばらつきの状況は、狭い範囲に収まっている。

(国語科)

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題が見られた。また、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。

(算数・数学科)

数直線上の分数を捉えることや、百分率を倍を使って捉え直し表現することに課題が見られた。また、あらかじめ書かれている図形の証明を評価・改善することに課題が見られた。

(理科)

電気が通る回路を実際の生活の中でつくることに関する理解に課題が見られた。また、化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題が見られた。

4 本県における調査結果の概要

【教科に関する調査】

(全体)

正答数の分布については、どの教科でも全国と同様の傾向が見られた。

(国語科)

文章の要旨を捉えたり、構成を工夫して書いたりすることに課題があると考えられる。

(算数・数学科)

基礎的な数の概念理解や、問題を統合的・発展的に考えることに課題があると考えられる。

(理科)

観察・実験を行いながら、実感を伴った知識の習得ができていると考えられる。一方で、探究の過程に課題があると考えられる。

【質問調査】

- ・「自分には、よいところがあると思う」「先生が自分のよいところを認めてくれている」「困りごとなどについて先生や学校にいる大人に相談できる」と回答した児童生徒の割合が、それぞれの質問調査開始以降、最も高い値であった。
- ・授業の内容はよくわかると回答した児童生徒の割合が、どの教科も前年度(理科については令和4年度)を下回った。児童生徒が「わかった」と実感できる授業づくりを推進していく必要がある。

5 今後の取組

各教科において、知識・技能を問う問題に課題が見られた。基礎・基本となる内容をどのように身に付けさせ、活用の部分とどう融合させていくのかについて、市町村(学校組合)教育委員会と連携しながら授業改善に取り組んでいく。特に課題が見られた中学校数学については、県教育委員会の指導主事が全校を訪問し、授業改善のポイントを示すとともに、担当教員と授業づくりについて協議及び指導助言を行う。

主な取組	内容
とっとり学力・学習状況調査を活用した授業改善	・児童生徒の非認知能力や学習方略、昨年度からの児童生徒の学力の伸びを把握し、授業や学級経営に生かせるよう、その活用方法を情報提供し、支援
全国学力・学習状況調査を活用した授業改善	・実際に調査問題を解きながら、日々の授業改善に役立つポイント等を示した動画「研修パッケージ」の活用を促し、授業改善を推進
思考力、判断力、表現力等の育成を目指した取組	・中学校数学における活用問題集「B-PLAN」を活用した「わかる・できる」授業づくりの推進
【新規】中学校数学訪問	・県教育委員会の指導主事が全校を訪問し、授業改善のポイントを示すとともに、担当教員と授業づくりについて協議及び指導助言を行う。

6 本県における各教科の特徴的な問題 ()内は全国平均(公立) 問題の詳細は別紙参照

(1) 国語

<小学校>

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題(あついで)
(知識・技能) 鳥取県正答率: 72.4% (72.1%)

- 出題された漢字を正しく書き、使うことができる児童が多い。
- 漢字そのものを正しく書くことができるだけでなく、同音異義語から文章に合う漢字を選ぶ力が身に付いていると考えられる。

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題(思考・判断・表現) 鳥取県正答率: 48.7% (51.3%)

- 資料を読み、要旨を正確に把握することに課題があると考えられる。要旨を把握するためには、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、文章全体の構成を捉えることが重要である。
- また、文章全体の構成を捉えて要旨を把握するためには、叙述を基に、書き手が、どのような事実を理由や事例として挙げているのかなどに着目することが重要である。

<中学校>

事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる問題(知識・技能) 鳥取県正答率: 63.2% (61.0%)

- 出題された語句の意味を正しく理解できている生徒が多い。
- 語句の量を増すとともに、話や文章の中でどのように使用されているかについて考えることができていると考えられる。

読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題(思考・判断・表現) 鳥取県正答率: 27.0% (30.1%)

- 文や段落の長さ、文や段落の役割、段落の順序、語順などが適切であるかなどをみることに課題があると考えられる。
- 書いた文章を推敲する際には、伝えようとするのが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることが重要である。

(2) 算数・数学

<小学校>

異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題(知識・技能) 鳥取県正答率: 81.4% (81.3%)

- 異分母の分数の加法の計算についての知識及び技能が身に付いている児童が多い。
- 異分母の分数の加法を計算する場合には、分母の最小公倍数を用いて通分し、計算することが必要となる。ここでは、例えば、 $1/2$ と $1/3$ の分母の最小公倍数である6を用いて通分し、 $3/6+2/6$ を計算するが、その技能が十分に定着していることが考えられる。

小数の加法について、数の相対的な大きさをを用いて、共通する単位を書く問題(知識・技能) 鳥取県正答率: 68.1% (74.1%)

- 0.4は0.01の40個分と見ることができなかつたり、 $0.4+0.05$ についてそれぞれの単位を揃える必要があることを理解できず誤って0.1と解答したりしていることが予想され、数の相対的な大きさをを用いて、共通する単位を捉えることに課題があると考えられる。
- 小数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して数の相対的な大きさについて理解し、既習の整数の加法に帰着できるようにすることが重要である。

<中学校>

素数の意味を理解しているかどうかをみる問題（知識・技能）

鳥取県正答率：19.7%（31.8%）

- 1から9までの自然数の中から素数をすべて選ぶ問題である。1を素数と考えて解答している生徒が多くいることから、素数についての概念理解に課題があると考えられる。
- 素数についての概念理解は、約数や倍数などの整数の性質を捉え直すことにもつながるため、確実に定着させる必要がある。

統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる問題（思考・判断・表現）

鳥取県正答率：31.7%（36.3%）

- 平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に $BE = DF$ となる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する問題である。証明を行った後に、条件を変えて統合的・発展的に考え、評価・改善することに課題があると考えられる。
- 図形の性質を考察する場面では、予想した事柄が成り立つことを証明したり、条件を変えて共通する性質を見いだすなど統合的・発展的に考察したりすることや、問題解決の過程や結果を振り返って新たな性質を見いだすことが大切である。

(3) 理科

<小学校>

ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題（知識・技能）

鳥取県正答率：75.0%（70.7%）

- 花のつくりや受粉についての知識が身に付いている児童が多い。
- 理科では、科学的な言葉を使うことや、科学的な言葉を使って説明する場面を設定することが大切であり、実際に植物を栽培し、観察・実験を行う中で科学的な言葉を使用することで、実感を伴った知識の習得ができていると考えられる。

発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題（思考・判断・表現）

鳥取県正答率：57.4%（62.0%）

- 実験を計画する際に、必要な条件を正しく制御した解決の方法を発想できていないことが課題であると考えられる。
- 理科における問題解決の場面では、自然の事物・現象に影響を与えると考えられる要因を予想し、その予想を基に解決するための実験の方法を計画する。さらに、実験に関する全ての条件を明確にし、図や表などに整理して条件を制御することが重要である。

<中学校>

電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題（知識・技能）

鳥取県正答率：53.4%（51.9%）

- 直列回路と並列回路における回路全体の抵抗と熱量に関する知識が身に付いている生徒が多い。
- 回路全体の抵抗の求め方や熱量の求め方を習得することのみを目的とするのではなく、これまで授業で行われた観察、実験を想起したり、これまで学習した知識を活用したりして、発生する熱量と直列回路・並列回路における合成抵抗とを関連付けて概念的な理解を深めることができていると考えられる。

身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題（思考・判断・表現）

鳥取県正答率：36.4%（46.2%）

- 見通しをもって科学的に探究をするためには、疑問や見いだした問題から解決するための課題を設定することが大切である。
- 「課題の把握」の段階で生徒が疑問や問題を見いだしやすい自然の事物・現象を提示することが重要である。その上で身の回りの事象から生じた疑問や問題が解決可能かどうかに着目し、科学的な探究の課題を自分の言葉で表現する学習場面を設定する必要がある。

7 質問調査の結果概要

(主な成果)	
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合が調査開始以降、最も高い値であった。「先生が自分のよいところを認めてくれている」「困りごとなどについて先生や学校にいる大人に相談できる」と回答した児童生徒の割合もそれぞれの質問調査開始以降、最も高い値であったことから、各学校で教職員が児童生徒の良さを認め、良好な人間関係を築いていることにより、自己肯定感が育まれていることが考えられる。 ・授業における一人一台端末の活用が小中学校ともに昨年度より進んでおり、端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合も高まっている。 	
(主な課題)	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容はよくわかると回答した児童生徒の割合が、どの教科も前年度(理科については令和4年度)を下回った。児童生徒が「わかった」と実感できる授業づくりを推進していく必要がある。 ・昨年度に引き続き、授業で自分の考えが上手く伝わるよう、工夫して発表することに課題が見られた。「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」のための指導のポイントについて示した資料「鳥取県教育の重点」を活用し、授業改善を推進していく必要がある。 	

上段：小学校、下段：中学校

項目	内容(:児童生徒質問調査、 :学校質問調査)	R7値	R6値	昨年度比
生徒指導	自分には、よいところがあると思う	86.8	83.9	+2.9
		85.0	82.7	+2.3
	先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う	94.5	92.8	+1.7
		93.5	92.3	+1.2
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	70.8	67.3	+3.5	
	75.0	71.5	+3.5	
授業改善	国語の授業の内容はよくわかる	79.9	85.7	-5.8
		74.9	82.0	-7.1
	算数・数学の授業の内容はよくわかる	75.2	79.5	-4.3
		65.3	71.4	-6.1
	理科の授業の内容はよくわかる(R4 値、 R4 値との比較)	88.5	88.5	0.0
		72.5	78.3	-5.8
ICT活用	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用している(ほぼ毎日)	43.6	22.2	+21.4
		69.3	47.1	+22.2
	自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させている(週1回以上)	70.1	71.5	-1.4
		82.8	73.3	+9.5
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしている	91.5	91.4	+0.1	
	89.7	78.3	+11.4	
ふるさとキャリア教育	将来の夢や目標を持っている	83.8	81.8	+2.0
		65.2	66.5	-1.3
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	80.5	83.6	-3.1
		75.7	76.8	-1.1
研修・校内研修	全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	97.5	93.1	+4.4
		91.4	91.7	-0.3
	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している(オンライン参加を含む)	95.7	97.4	-1.7
		93.1	90.0	+3.1
教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合った(学期に数回程度以上)	78.7	76.7	+2.0	
	81.0	76.7	+4.3	
		94.0	94.8	-0.8
		89.7	75.0	+14.7

8 教科調査の状況

教科調査平均正答率(%)・平均IRTスコア()(中学校理科のみ)

	国語		算数・数学		理科	
	本県(公立)	全国(公立)	本県(公立)	全国(公立)	本県(公立)	全国(公立)
小学校6年	65	66.8	55	58.0	56	57.1
中学校3年	52	54.3	44	48.3	49.0	50.3

文部科学省は、平成29年度より小数点以下を四捨五入し整数値で公表している。

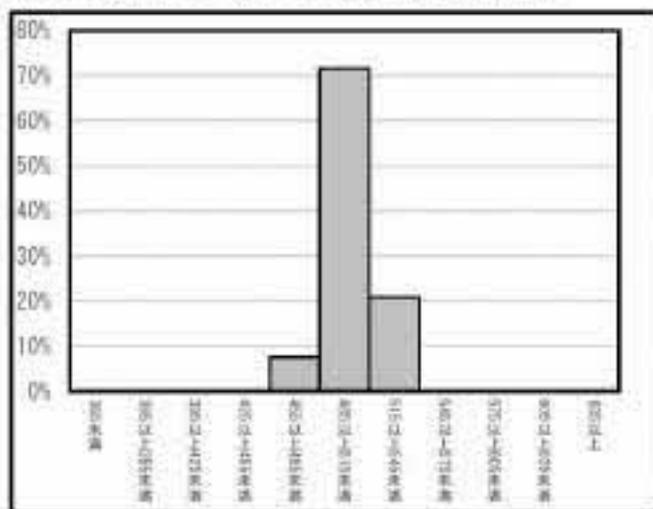
IRTスコアとは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

【参考1】 CBT方式及びIRTについて

- ・令和7年度調査では、「中学校理科」において、ICT端末等を活用しオンラインでテストを受ける「CBT方式」が初めて導入され、複数日時で分散実施された。
- ・IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものを「IRTスコア」、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものを「IRTバンド」という。
- ・IRTスコア及びIRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。
- ・これまでの悉皆調査では、各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、異なる年度の結果を単純に比較することは適当ではない。しかし、十分な数の問題を準備し、CBTで複数の問題セットを配信する方式をとる場合は、今までと同程度の問題数は調査期間終了後に公開することとしつつも、それ以外の問題については適切に漏洩防止策を講じた上で非公開とし、次年度以降も出題する設計とすることで、IRTに基づき、各教育委員会や学校でも年度をまたいで児童生徒の学力を比較することも可能となる。
- ・令和8年度は「中学校英語」及び「児童生徒質問調査」、令和9年度以降は全ての調査がCBT方式により実施予定。また、「教科に関する調査」のCBT方式では、IRTが採用される。
- ・本県においては、今回のCBT方式での実施に係るトラブルについては、特になかった。

【参考2】 都道府県・指定都市における中学校理科の平均IRTスコアの状況

IRTスコア分布グラフ（横軸：IRTスコア分布、縦軸：割合）



全国（公立）の平均正答率	全都道府県市（公立）中、最高平均IRTスコア【全国との差】	全都道府県市（公立）中、最低平均IRTスコア【全国との差】
503	533 【+30】	465 【-38】

全都道府県市数	全都道府県市（公立中）の平均IRTスコア	全都道府県市（公立中）の中央値	全都道府県市（公立中）の標準偏差
67	500	500	14.2

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均IRTスコアは整数値で表示している。

令和7年度全国学力・学習状況調査

【小学校】児童質問調査結果から

※色付きの質問事項は、今年度初めて聞かれたもの

R7番号	質問事項	R7
		肯定的な回答(%)
1	朝食を毎日食べていますか	93.9
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	83.5
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.4
4	あなたの家では主に何語で話していますか(日本語)	99.6
5	自分には、よいところがあると思いますか	86.8
6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	94.5
7	将来の夢や目標を持っていますか	83.8
8	人が困っているときは、進んで助けていますか	93.9
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.7
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	70.8
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.4
12	学校に行くのは楽しいと思いますか	85.9
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	74.5
14	友達関係に満足していますか	92.9
15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	93.0
16	分からないことやワクワクを知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	79.5
17	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(2時間以上)	21.0
18	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除きます)(2時間以上)	9.3
19	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(3時間以上)	7.2
20	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか(オンライン授業の場合も含む)	33.5
21	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)(10分以上)	53.9
22	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)(26冊以上)	64.1
23	新聞を読んでいますか(週に1回以上)	12.6
24	読書は好きですか	71.4

令和7年度全国学力・学習状況調査

【小学校】児童質問調査結果から

※色付きの質問事項は、今年度初めて聞かれたもの

R7番号	質問事項	R7
		肯定的な回答(%)
25	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか	78.5
26	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)	37.6
27	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	80.5
28	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか(ほぼ毎日)	43.6
29-1	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか	78.6
29-2	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思いますか	87.7
29-3	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか	63.6
29-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか	72.1
30-1	ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	78.8
30-2	ICT機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	87.8
30-3	ICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる	84.9
30-4	ICT機器を活用することで、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	87.2
30-5	ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	72.7
30-6	ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	81.6
30-7	ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる	85.5
31	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	58.8
32	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	77.3
33	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	75.2
34	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	82.5
35	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	83.5
36	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	77.8
37	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	82.2
38	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	88.8
39	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	91.6

令和7年度全国学力・学習状況調査

【小学校】児童質問調査結果から

※色付きの質問事項は、今年度初めて聞かれたもの

R7番号	質問事項	R7
		肯定的な回答(%)
40	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	80.1
41	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	85.4
42	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	81.1
43	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	87.2
44	国語の勉強は得意ですか	59.6
45	国語の勉強は好きですか	58.6
46	国語の授業の内容はよく分かりますか	79.9
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.0
48	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか	78.3
49	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか	75.6
50	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか	79.6
51	国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか	75.8
52	算数の勉強は得意ですか	55.7
53	算数の勉強は好きですか	56.2
54	算数の授業の内容はよく分かりますか	75.2
55	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.7
56	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか	81.5
57	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	82.2
58	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	63.4
59	小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか	79.0
60	理科の勉強は得意ですか	79.7
61	理科の勉強は好きですか	81.4
62	理科の授業の内容はよく分かりますか	88.5
63	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	79.7

令和7年度全国学力・学習状況調査

【小学校】児童質問調査結果から

※色付きの質問事項は、今年度初めて聞かれたもの

R7番号	質問事項	R7
		肯定的な回答(%)
64	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	24.7
65	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか	60.9
66	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持った り問題を見いだしたりしていますか	63.8
67	理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか	92.1
68	理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想 (仮説)を考えていますか	82.0
69	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考 えていますか	85.6
70	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り 返って考えていますか	73.3
71	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えら れたことを、普段の生活に役立てていますか	77.9

令和7年度全国学力・学習状況調査

【中学校】生徒質問調査結果から

※色付きの質問事項は、今年度初めて聞かれたもの

R7 番号	質問事項	R7
		肯定的な回答(%)
1	朝食を毎日食べていますか	93.2
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	84.9
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	93.8
4	あなたの家では主に何語で話していますか(日本語)	99.2
5	自分には、よいところがあると思いますか	85.0
6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	93.5
7	将来の夢や目標を持っていますか	65.2
8	人が困っているときは、進んで助けていますか	90.2
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.3
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	75.0
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.0
12	学校に行くのは楽しいと思いますか	85.3
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	79.7
14	友達関係に満足していますか	92.5
15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	91.2
16	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか	79.1
17	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(2時間以上)	24.8
18	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除きます)(2時間以上)	8.2
19	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(3時間以上)	11.1
20	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか(オンライン授業の場合も含む)	47.3
21	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)(10分以上)	44.3
22	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(一般の雑誌、新聞、教科書は除く。)(26冊以上)	61.3
23	新聞を読んでいますか(週に1回以上)	7.6
24	読書は好きですか	62.9

令和7年度全国学力・学習状況調査

【中学校】生徒質問調査結果から

※色付きの質問事項は、今年度初めて聞かれたもの

R7 番号	質問事項	R7
		肯定的な回答(%)
25	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか	75.7
26	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事の先生は除く)	31.9
27	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	75.7
28	1,2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか(ほぼ毎日)	69.3
29-1	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか	84.6
29-2	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができますか	91.2
29-3	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか	67.1
29-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか	78.1
30-1	ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができますか	集 計 か ら 除 外 で 実 施 し た た め、
30-2	ICT機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができますか	
30-3	ICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができますか	
30-4	画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかりますか	
30-5	ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか	
30-6	ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなりますか	
30-7	ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができますか	
31	1,2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	59.0
32	1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	79.4
33	1,2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	74.2
34	1,2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	80.9
35	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか	85.3
36	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	74.7
37	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができますか	75.6
38	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	85.2
39	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	92.1

令和7年度全国学力・学習状況調査

【中学校】生徒質問調査結果から

※色付きの質問事項は、今年度初めて聞かれたもの

R7 番号	質問事項	R7
		肯定的な回答(%)
40	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	83.5
41	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	85.9
42	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	83.0
43	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	92.1
44	国語の勉強は得意ですか	54.5
45	国語の勉強は好きですか	60.5
46	国語の授業の内容はよく分かりますか	74.9
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	88.9
48	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか	78.2
49	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか	75.2
50	国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか	73.4
51	国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか	73.0
52	数学の勉強は得意ですか	44.9
53	数学の勉強は好きですか	53.0
54	数学の授業の内容はよく分かりますか	65.3
55	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	77.4
56	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか	58.5
57	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	76.5
58	数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	63.4
59	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか	65.2
60	理科の勉強は得意ですか	54.9
61	理科の勉強は好きですか	67.2
62	理科の授業の内容はよく分かりますか	72.5
63	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	67.2

令和7年度全国学力・学習状況調査

【中学校】生徒質問調査結果から

※色付きの質問事項は、今年度初めて聞かれたもの

R7 番号	質問事項	R7
		肯定的な回答(%)
64	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	24.7
65	理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか	56.9
66	理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか	53.7
67	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか	56.2
68	理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか	81.1
69	理科の授業では、自分の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てていますか	71.6
70	理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか	71.2
71-1	理科の授業では、見いだした課題に対して、日常生活や既習事項と関連付けた根拠のある予想をしていますか	除 外 ラン ダム 方式 で 実 施 し た た め 、 集 計 か ら
71-2	理科の授業では、観察や実験の結果を自分でまとめていますか	
71-3	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	
71-4	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	
72-1	1, 2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	
72-2	1, 2年生のときに受けた授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	
72-3	1, 2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	
72-4	1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	
72-5	1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	

別紙

本県における各教科 の特徴的な問題

イあつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。

【資料2】

〔敬語活用〕「日本語をつかまえる」による

〔敬語活用〕「日本語をつかまえる」による

【資料3】

〔敬語活用〕「日本語をつかまえる」による

〔敬語活用〕「日本語をつかまえる」による

【木村さんのメモ】

言葉の変化について分かったこと

「あたらしい」は新しい形

(奈良時代) (平安時代)

あたらし ↓ ア ↓ あたらしい

時代とともに言葉の形が変わる。

【あついで-アツイ】

(室町時代) (大正時代より前) (今)
あついで ↓ ア ↓ あついで

イ

(2)

【木村さんのメモ】の「イ」に当てはまる内容として最も適切なものを、【資料3】を読み、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 時代とともに言葉の意味が変わる。
- 2 時代とともにものの使い方が変わる。
- 3 時代によってものの呼び方が変わる。
- 4 時代によって言葉の使い方は変わらない。

(1) 国語〈中学校〉①

三 ― 観望②「しきりと」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 寂しげに
- 2 改めて
- 3 何度も
- 4 注意深く

(1) 国語〈中学校〉②

〔手紙の下書きの一部〕

光日

〇〇様方ください。

さて、作非は、私たちの職場体験活動に協力していただきありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。

この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていませんでしたが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

二 三三三さんは、さらに様子を調べようとしています。あなたなら、記事稿の下書きの「一題」の、どの部分をもとのように修正しますか。「三三三さんの修正の仕方」を参考に、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 修正した方がよい部分は複数ありますが、言葉の使い方や記述の仕方などについて、あなた自身が修正した方がよいと考える部分の一つを記すこと。なお、「手紙の下書きの一部」の内容は、変わらないようにすること。

条件2 修正する際は、理由を簡潔に記述したりしたい部分を選んで直し、書き直す場合は、直した箇所の右側に、どのように直すのかを詳しく記すこと。

条件3 修正した方がよいと考えた理由を具体的に書くこと。なお、読み添えて支度を表すときは、補って直した部分には書き加えずとも構いません。

(2) 算数・数学〈小学校〉①

(4) $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算しましょう。

(2) 算数・数学〈小学校〉②

(1) ひろとさんは、 $0.4 + 0.3$ についてまとめています。



0.4 は 0.1 の 4 個分、0.3 は 0.1 の 3 個分です。
0.1 を ㊦ として下の図のように表します。

0.4

0.1 が 4 個

0.3

0.1 が 3 個

$0.4 + 0.3$ の計算は、0.1 をもとにすると、 $4 + 3$ を使って考えることができます。

次に、 $0.4 + 0.05$ について同じようにまとめます。

0.4 は ㊦ の 40 個分、0.05 は ㊦ の 5 個分です。
 $0.4 + 0.05$ の計算は ㊦ をもとにすると、 $40 + 5$ を使って考えることができます。

上の ㊦ にはすべて同じ数が入ります。 ㊦ に入る数を書きまじょう。

$0.4 + 0.3$ は、0.1 をもとにする数にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

(2) 算数・数学〈中学校〉①

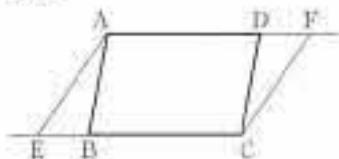
1 下の 1 から 9 までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

(2) 算数・数学〈中学校〉②

(2) 次の図 2 のように、平行四辺形 ABCD の辺 CB、AD を延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点 E、F をそれぞれとつても、四角形 AECF は平行四辺形になります。このことは、前ページの証明 1 の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでのの中から 1 つ選び、正しく書き直しなさい。

図 2



ア	平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、 $AD = BC$ よって、 $AF = EC$ ……①
イ	平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、 $AD = BC$ ……②
ウ	仮定より、 $BE = DF$ ……③
エ	②、③より、 $AD + DF = BC + BE$ ……④
オ	①より、 $AF = EC$ ……⑤
	①、⑤より、 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、 四角形 AECF は平行四辺形である。

(3) 理科〈小学校〉①

たかひろさんとるみさんは、へちまの花のつくりについて調べています。

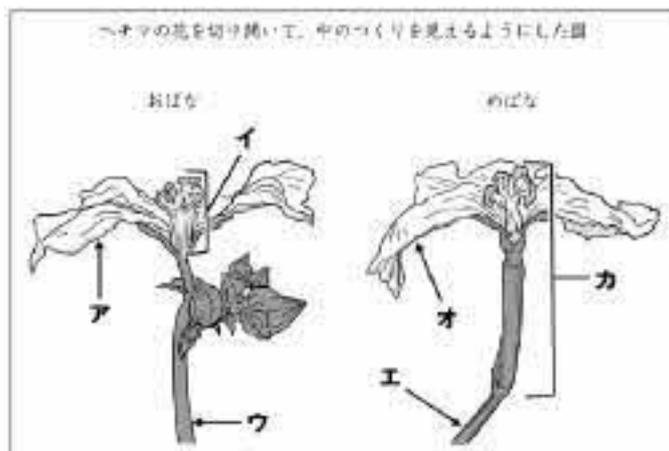


へちまのおばなとめばなは、どんなつくりになっているのかな。

たかひろ

(1) へちまのおしべとめしべを下の図の **ア** から **カ** の中からそれぞれ1つ選んで、その記号を書きましょう。

また、「花粉がめしべの先につく」ことを表すことばを書きましょう。



(3) 理科〈小学校〉②

(3) 【方法3】の **ケ** と **コ** は、それぞれどのような条件で実験すればよいですか。 **ケ** と **コ** にあてはまる実験を、下の1から4の中から2つ選んで、その番号を書きましょう。

たかひろさんたちは、インゲンマメの発芽の条件について調べたことを思い出し、次のように、へちまの発芽について調べることにしました。

【問題】へちまの種子は、どのような条件で発芽するのだろうか。

【予想】インゲンマメの種子と同じように、水、空気、適した温度（室温）といった条件で発芽すると思う。

【方法1】水の条件を調べる。

<p>しめぞめた だまし鉢</p> <p>【条件】 ・水あり ・空気あり（種子が空気にさらされている） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし</p>	<p>しめぞめた だまし鉢</p> <p>【条件】 ・水なし ・空気あり（種子が空気にさらされている） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし</p>
---	---

【方法2】空気の条件を調べる。

<p>しめぞめた だまし鉢</p> <p>【条件】 ・水あり ・空気なし（種子が空気にさらされていない） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし</p>	<p>しめぞめた だまし鉢</p> <p>【条件】 ・水あり ・空気あり（種子が空気にさらされている） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし</p>
--	---

【方法3】適した温度（室温）の条件を調べる。

<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 10px;"> ケ </div>	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 10px;"> コ </div>
--	--

<p>1</p> <p>しめぞめた だまし鉢</p> <p>【条件】 ・水あり ・空気あり（種子が空気にさらされている） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし</p>	<p>2</p> <p>しめぞめた だまし鉢</p> <p>【条件】 ・水あり ・空気なし（種子が空気にさらされていない） ・温度（室温） ・日光あり（箱をはずして） ・肥料なし</p>
<p>3</p> <p>しめぞめた だまし鉢</p> <p>【条件】 ・水あり ・空気なし（種子が空気にさらされていない） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし</p>	<p>4</p> <p>しめぞめた だまし鉢</p> <p>【条件】 ・水あり ・空気あり（種子が空気にさらされている） ・温度（室温） ・日光あり（直射日光が当たらない程度） ・肥料なし</p>



実験の結果から、へちまの種子は、水、空気、適した温度といった条件が必要だったよ。

たかひろ

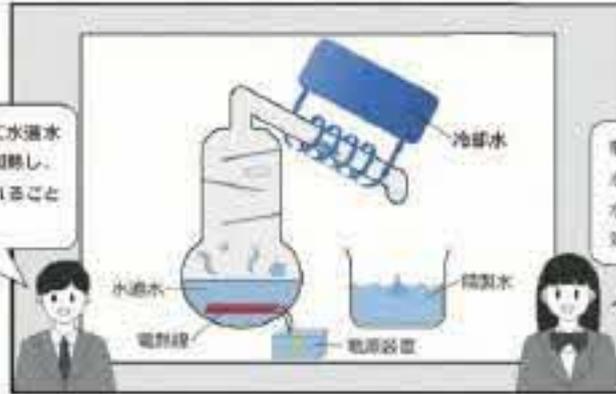


理科の実験で使用する水は精製水です。精製水について、調べたことを発表しましょう。

精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりすることによってつくった水です。



精製水は、右図のように水道水に電熱線を入れて水を加熱し、蒸留する方法でつくられることが多いです。



電気エネルギーを利用して水を加熱しているんですね。水は温まりにくいから、効率よく温める工夫が必要ですね。



より速く水を温めるには、電熱線をどのようにつなげたらよいでしょうか。右のお題で考えてみましょう。



同じ電圧を加えたとき、回路全体の抵抗がどうなるかを考えれば分かりそうです。

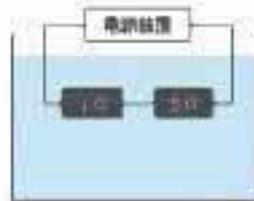


図1

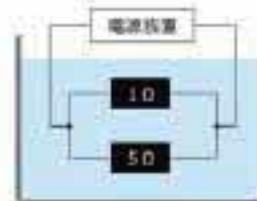


図2

10 10Ωの電熱線
50 50Ωの電熱線

(1)

回路全体の抵抗が大きいのは図1、図2のどちらか、1つ選びなさい。また、下線部について、同じ電圧を加えて、より速く水を温めることができるのは図1、図2のどちらか、1つ選びなさい。

Aさん



【Aさんの疑問】

理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？

【Aさんの疑問】を調べたり、実験を行ったりして解決するためには、どのような課題にすればよいですか？



Aさん



課題は、

() にしようと思います。

(2)

【Aさんの疑問】を解決するために、() に適切な課題を書きなさい。

令和7年度全国高等学校総合体育大会に係る本県開催競技結果について

令和7年8月21日
体 育 保 健 課

令和7年度のインターハイが中国ブロックを中心に開催され、本県では7月30日の自転車競技を皮切りに5競技6種目を実施し、全国から集結した2,500名を超える高校生が13日間にわたり熱戦を繰り広げました。

また、県内の高校生もボランティアとして協力するなど高校生が主体的に関わり、おもてなしの気持ちをもって選手・スタッフをはじめとした全ての来県者を温かく歓迎するとともに大会運営をサポートしました。大きな事故等はなく、予定どおりに全日程を終了しましたので、概要を報告します。

1 県内競技開催状況について

競技名	概要
ホッケー	開会式 (8/1) : とりぎん文化会館 競技 (8/2~8/6) : ヤマタスポーツパーク、八頭高校 (計4コート) 《上位入賞 (3位以内)》 ・八頭高校 (男子) 第3位
相撲	開会式 (8/8) : 鳥取県民体育館 競技 (8/8~8/10) : 鳥取県民体育館 《上位入賞 (3位以内)》 ・個人戦 チョローンバトル サンチルガリデ (鳥取城北高校2年) 第3位 ・個人体重別戦 100kg級 小村仁義 (鳥取城北高校2年) 第3位 ・団体 鳥取城北高校 優勝
自転車競技	開会式 (7/30) : エースパック未来中心 競技 (トラック 7/31~8/2) : 倉吉自転車競技場 (ロード 8/3) 倉吉市・北栄町特設ロードコース 《上位入賞 (3位以内)》 ・ロード 吉田奏太 (倉吉西高校3年) 優勝
弓道	開会式 (7/31) : 鳥取県立武道館 競技 (7/31~8/3) : 鳥取県立武道館
ウエイトリフティング	開会式 (8/7) : 米子コンベンションセンター BIG SHIP 競技 (8/7~8/11) : 米子コンベンションセンター BIG SHIP

《県内開催競技以外の上位入賞 (3位以内) (8月15日時点)》

- ・バスケットボール (男子) 鳥取城北高校 優勝
- ・ボクシング (ライト級) 作野剣信 (米子高校1年) 準優勝
- ・ボクシング (バンタム級) 作野辰嘉 (米子高校3年) 第3位
- ・ローイング (女子ダブルスカル) 藤田結衣、石倉莉子 (米子南高校3年) 第3位

2 おもてなし活動や高校生ボランティア等の取組

(1) 各競技の運営補助

補助役員として1,000人を超える県内の高校生が会場設営等の準備作業や受付、競技の補助など大会運営全般においてサポートした。



(2) 開会式におけるおもてなし活動

競技別の開会式会場において高校生活動推進員及び高校生ボランティアが出場選手をはじめとする来場者を歓迎した。



(3) 歓迎あいさつ

高校生活動推進員が開会式において挨拶し、出場選手を激励するとともに、来県者へ歓迎のことばを伝えた。

(4) 応援のぼりの制作

全ての都道府県の出場選手を応援するため、県内の高校生が応援のぼりを制作し、全ての競技会場に掲示した。

(計 235 枚 (47 都道府県×5 競技))



(5) 次世代の子どもたちへの来場の呼びかけ

次の世代の子どもたちに来場を呼びかけるため、大会の見どころをまとめたチラシを県内の全ての学校に配布した。

3 施設整備等

(1) 八頭高校ホッケー場の人工芝張替

インターハイ開催に合わせて、耐用年数が経過して劣化していた八頭高校ホッケー場のメインフィールドの人工芝の全面張り替えを行った。

- ① 完成日 令和7年7月3日
- ② 施工場所 八頭高校ホッケー場 (施工面積 6,489.60 m²)
- ③ 事業費 294,800 千円



(2) 倉吉自転車競技場の走路補修

自転車競技場の走路が劣化していたため、施設を所管している鳥取県スポーツ協会に補助金を交付し、補修工事を行った。

- ① 補助期間 令和6年4月から令和7年4月
- ② 補助交付額 140,934 千円

